

生存圏科学に向けて

Toward the Establishment of Science for Sustainable Humanosphere

今村 祐嗣[1]

Yuji Imamura[1]

[1] 京大・木質科学研

[1] Wood Reserch Inst., Kyoto Univ.

21世紀の人類が直面する地球温暖化、環境破壊、資源の枯渇などは、人類の生存そのものを脅かす恐れがある。これらの深刻な問題に対し、人類の生存基盤について中長期的視野に立ち研究開発を進め、社会に対して積極的に提言や還元を行うことがわれわれに課せられた重要な課題である。

今春に京都大学宙空電波科学研究センターと木質科学研究所が統合し「生存圏研究所」を設立することになったが、その理念は、生存基盤研究の中で、人類の生存を支える「圏」という概念を重視し、生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏についてそれぞれの研究を深化させると同時に、それぞれの有機的連関に広がりをもたせ、生存圏の正しい理解と問題解決型の開発・創生活動に統合的、流動的かつ戦略的に取り組み、人類の持続的発展と福祉に貢献することにある。

われわれの「生存圏科学」の目指すところは、存続の危機に瀕している地球上の生存圏において、その状態を正確に診断するとともに、それに基づいて、現状とその先行きを学術的に正しく評価し、理解を深化させることであり、地球生存圏の悪化の悪循環を断ち切り、子孫に持続可能な生存圏を引き渡すほか、宇宙空間へと展開する新たな生存圏の開拓などを開発・創生することである。

すなわち、炭素・大気・宇宙プラズマ等の人類生存圏内の循環・連鎖を研究し、生存圏の理解と環境計測および技術開発、木質バイオマス資源の形成と利用、幅広い意味での太陽エネルギーの利用と技術開発に、診断と処方両方の立場から、より深く先進的なレベルで取り組む。そして、広い専門分野間での流動的・戦略的、かつ、有機的連携を軸に、化石資源依存型社会基盤を太陽エネルギー依存型持続的社會基盤へと変革する原動力となるべく、新しい学際的学問領域である「生存圏」研究領域を創生する。